（毎月曜日休刊 定価1カ月1,560円税込） 道北日報 （昭和24年4月30日第3種郵便物認可） 日刊 第19383号

御料牧場が 宮内庁 士別産羊買い上げ

御料牧場へ向かうサフォーク羊

サフォークを一般競争入札で

士別市南町西4区にある士別三協株式会社（赤松賢介社長）で飼養しているサフォーク羊20頭が、栃木県にある宮内庁御料牧場に買い上げられることになった。12日には士別三協の牧場から御料牧場に向けて20頭の羊が旅立った。士別三協の赤松社長は「牧場で飼養している羊が認められ光栄なこと」と話している。（村山功）

栃木県にある宮内庁御料牧場では約300頭のサフォーク羊を飼養している。

肥育後に場内で食肉処理した羊肉は、おもに宮中晩餐や園遊会等の行事で利用されている。

また少量ではあるが、皇室の方々の日常用としても消費されている。

御料牧場内の羊だけで交配を継続すると近親交配が進んでしまうため、健全な資質を維持する目的で、これまでは数年おきにニュージーランドから羊を定期導入してきていた。

その一方で、近年の物価高の影響を受け並行して国内での供給元を探していたが、士別市がサフォーク羊の生産が盛んであることを知り、今年3月ごろに士別市に照会し、複数の牧場の紹介を受けていた。

その後、サフォーク羊の導入にあたり一般競争入札を行った結果、士別三協が落札した。

御料牧場が士別三協から買い上げるのは、2023年春と24年に生まれた交配済みの雌羊20頭。

落札後には御料牧場の担当者が士別三協の牧場を訪れ、買い上げるサフォーク羊を確認しており、「体形にムラがなく、均整のとれた素晴らしい羊ばかり。また飼養に携わる方々から伝わる羊への情熱が印象に残りました」との評価を受けている。

12日には士別三協の牧場から御料牧場に向けて20頭のサフォーク羊が旅立った。

同行する士別三協の土橋直也牧場長は「しっかりと、無事に届けてきたいです」と話していた。

御料牧場で買い上げられたサフォーク羊は、今年9月に交配を行っており、来年1月末ごろから2月にかけて出産の時期を迎えるという。

士別三協の赤松社長は「今年8月に亡くなった故平山秀介先生から『御料牧場は特別だ』といった話しを以前から聞いていました。それからは、御料牧場を目標としてサフォーク羊の飼養に取り組んできましたが、その御料牧場に買い上げていただくことが実現し光栄です。牧場の立ち上げからお世話になってきた平山先生へ、最高の恩返しができると思っています」と話している。

士別三協から交配済雌20頭 「羊への情熱伝わる」と評価

故平山さんと赤松社長

士別合宿組19チームが出場

23日のクインーズ駅伝 市長ら現地で激励と誘致活動

第44回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会（クインーズ駅伝）が23日に宮城県で行われる。この大会には士別市で合宿を行っていた19チームが出場することになっている。

クインーズ駅伝にはシードチームをはじめ予選会を勝ち抜いた24チームが出場する。

宮城県松島町観光交流館前をスタートし、仙台市陸上競技場までの6区間、42・195キロでタスキをつなぎ、実業団女子の日本一を決める大会となっている。

クインーズ駅伝に出場するのはJP日本郵政グループ、積水化学、しまむら、パナソニック、エディオン、岩谷産業、第一生命グループ、資生堂、三井住友海上、スターツ、天満屋、京セラ、シスメックス、ユニクロ、ルートインホテルズ、ユニバーサルエンターテインメント、豊田自動織機、大塚製薬、肥後銀行、ノーリツ、東京メトロ、ダイハツ、クラフティア、愛媛銀行の24チーム。

このうち士別市でチームおよび換算実業団陸上競技連盟で合宿を行っていたチームは19チームで、出場チームのおよそ8割が士別合宿組となっている。

クインーズ駅伝の開催に向けて、20日から22日まで渡辺英次市長をはじめ、合宿の里士別推進協議会の鈴木勉会長、旅館業組合関係者らが現地へ出向き、大会前に出場チームを激励するほか、士別合宿の誘致活動も行ってくることになっている。

クインーズ駅伝はテレビ中継も行うことから、士別市教育委員会合宿の里・スポーツ推進課は「士別で合宿を行ってきた選手たちに声援をおくってもらいたい」と呼びかけている。（村山功）

ぷらっと14日から営業再開

士別市の入浴施設ぷらっとは11月14日から営業を再開する。

同施設は機器故障のため休業していた。

針

士別市の交通安全教育隊「まもってあげ隊」は、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした交通安全教室を実施している。

まもってあげ隊は、学校や老人クラブ、事業所など幅広い年齢層への交通安全教育を目的に、2010年10月に設立。

おもに幼稚園や保育所、小中学校、老人クラブなどからの依頼を受け、出前講座として交通安全教室を実施しているが、その特徴は参加する年代の特性を踏まえた指導。

園児や小学生には、道路横断の際の安全確認の徹底や道路への飛び出し禁止を指導。

中学生は登下校などで日常的に利用する自転車をテーマとし、整備不良の自転車や、携帯電話を操作しながらの運転、二人乗り、傘差し運転を実際に体験・見学し、その危険性を学んでもらっている。

道路横断中の事故で被害に遭うことが多い高齢者に対しては、夜間の事故防止対策として夜光反射材の着用を強く求めている。

講話だけでなく、寸劇、腹話術、体操なども取り入れ、理解しやすく興味を持ってもらえる内容とすることを心がけ、道交法の改正に伴う変更点なども随時解説して最新の情報を届けている。

年間40回ほどのペースで実施してきており、先月末に600回目を迎えた。これまでの教室の参加者は延べ2万3千人に上る。

これからの時期は、小学校入学を目前に控えた園児を対象とした教室で基本的な交通ルールやマナーの指導のほか、入学後は決められた通学路を通って登下校すること、入学前に保護者と一緒に通学路を歩いてみることなどをアドバイスするという。

交通事故から身を守るためには、自分の命は自分で守るという意識を強く持ち続けることが重要。

交通ルールやマナーを遵守するとともに、車が止まらないかもしれない、歩行者や自転車が飛び出してくるかもしれないと危険を予測した行動を心がけること で、事故を未然に防いでいきたい。（奈）

道北日報
発行所
株式会社 道北日報社
士別市大通東11丁目
電話代 23-3108 番
FAX 23-3109 番

おみやげに贈り物に
ラム肉ジンギスカン
いも・かぼちゃもち
セット
丘の上のレストラン
羊飼いの家
羊と雲の丘観光株式会社
TEL22-2991

道北日報社
Facebook ヘッドライン